

平成 20 年  
3 月 27 日

# 病害虫発生予報 4 月号

茨城県病害虫防除所  
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

## < 目 次 >

### ． 今月の予報

#### 【注意すべき病害虫】

ナシ：黒星病	1
促成キュウリ：褐斑病	1
促成トマト：灰色かび病	2
促成トマト：トマト黄化葉巻病	2

【その他の病害虫】	3
麦類，イチゴ，促成・半促成ピーマン，メロン，春レタス	

### ． 病害虫ミニ情報

麦類の赤かび病防除対策について	4
水稻の育苗箱施薬について	5

． 今月の気象予報	6
-----------	---

． テレホンサービス	6
------------	---

029(226)5321

本文に記載された農薬の登録内容は，平成 20 年 3 月 5 日現在のものです。

農薬登録速報については，農林水産省ホームページ「農薬コーナー」  
<http://www.maff.go.jp/nouyaku/> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所    Tel :029-227-2445

予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・今月の予報  
【注意すべき病害虫】

ナシ

1. 黒星病

[ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	やや多い	県下全域

[ 予報の根拠 ]

ナシの開花は平年よりやや早いと予想されるため、果そう基部での発生時期もやや早いと予想される。

昨年 10 月中旬の調査で、ナシ黒星病秋型病斑の発病度及び発生地点率は過去 7 年間と比べてやや高く、また秋季の落葉前にまとまった降雨があったことから、ナシ黒星病菌の越冬量は平年よりやや多いと予想される。

[ 防除上注意すべき事項 ]

りん片、芽基部の病斑は葉や果実への伝染源となるため、見つけ次第除去し、土中深く埋めるなど適切に処分する。

りん片脱落直前および落花期の DMI 剤散布は、黒星病を防除する上で特に重要なので、圃場をよく観察し、ナシの生育に合わせて確実に実施する。

薬剤散布は、十分な薬液でかけむらのないよう丁寧に行う。薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

(平成 19 年 10 月 16 日発表の病害虫情報 No.12 参照)

促成キュウリ

1. 褐斑病

[ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
-	平年並～やや多い	県下全域

[ 予報の根拠 ]

3 月下旬現在、やや多い発生である。

気象予報によると、向こう 1 か月の天気は平年並の降水量で、日照時間も多いと予想されることから、発生をやや抑制する条件である。

[ 防除上注意すべき事項 ]

多湿条件下での伝染力が高いので、十分に換気しハウス内を除湿する。

発生の少ないうちに防除を徹底する。

新たな伝染源とならないよう、病斑部は取り除いてハウス外に持ち出し処分する。

薬剤は、十分な量で丁寧に散布する。また、耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。

## 促成トマト

### 1. 灰色かび病

#### [ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
-	平年並	県下全域

#### [ 予報の根拠 ]

3月下旬現在，平年並の発生である。

#### [ 防除上注意すべき事項 ]

ハウス内が多湿になると発生が助長されるので，換気，送風，暖房等によりハウス内の湿度を低く保つ。

発生の少ないうちに，防除を徹底する。

発生した場合は，発病部位を取り除き，ハウス外に持ち出して処分する。

薬剤散布は，晴れた日の午前中に行い，薬液が乾きにくくなる午後からは行わない。また，曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は，くん煙剤を利用する。

薬剤は，十分な量で丁寧に散布する。また，耐性菌の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤を散布する。

## 促成トマトのトマト黄化葉巻病について

#### [ 現在の状況 ]

3月下旬現在，発病株を確認した。

今後気温の上昇にともない，本病を媒介するタバココナジラミの活動が活発となり，発生量の増加等が懸念される。

#### [ 防除対策 ]

発病が認められた株は，感染源となるため早期に抜き取り，ビニール袋等に入れて密封し，株を腐熟させてから処分する。

設置が可能な場合は，ハウスの開口部に防虫ネット（0.4mm 目合い）を設置し，タバココナジラミのハウス内への飛び込み，及び飛び出しを防止する。なお0.4mm 目合いの防虫ネットを設置した場合，通気性が低下し，病害の発生が助長されたり，ハウス内の温度が高くなることが予想されるので，ダクト通風やサイドの開閉，遮光資材の利用等，温湿度管理には十分注意する。

タバココナジラミは葉裏に寄生するため，薬液が葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。

雑草はタバココナジラミの生息場所となるため，ハウス内外の除草を徹底する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
麦類	赤かび病	発生時期： - 発生量： -	大麦は穂揃期，小麦は開花期（出穂後 7～10 日頃）が防除適期であるので，適期に必ず薬剤散布を行う。（病害虫ミニ情報 P4 参照，4 月に病害虫情報等を発表予定）
	縞萎縮病類	発生量： -	3 月下旬現在，小麦・二条大麦は平年並，六条大麦は平年よりやや多い発生である。
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並	3 月下旬現在，平年並の発生である。
	アブラムシ類	発生量： 平年並～やや多い	3 月下旬現在，平年並の発生である。向こう 1 ヶ月の気温は高いと予想され，発生を助長する条件である。
促成・半促成 ピーマン	ハダニ類	発生量：やや多い	3 月下旬現在，やや多い発生である。
	アザミウマ類	発生量： 平年並～やや多い	3 月下旬現在，平年並の発生である。向こう 1 ヶ月の気温は高いと予想され，発生を助長する条件である。
半促成 ピーマン	うどんこ病	発生量：やや多い	例年 3 月下旬に発生は見られないが，一部圃場で発生が見られた。
メロン	べと病	発生量： 平年並～やや多い	3 月下旬現在，やや多い発生である。向こう 1 か月の天気は降水量が平年並で，日照時間は多いと予想されることから，発生をやや抑制する条件である。
春レタス	腐敗病	発生量：平年並	3 月下旬現在，平年並の発生である。トンネル内が多湿にならないよう日中は換気を十分に行う。

## 麦類の赤かび病防除対策について

赤かび病は、収量や品質を低下させる大きな原因となります。検査規格における赤かび粒の混入率は0.0%と厳しく設定されており、赤かび病の防除は不可欠です。

本病原菌は、麦の開花から10日程度の間が最も感染しやすく、この期間に降雨が続き、気温が20以上になると発生が多くなります。

今年も、今後の気象や麦の生育状況などに注意するとともに、表1を参考に必ず防除を実施してください。なお、本病に対する薬剤防除の適期は、大麦では穂揃期、小麦では開花期（出穂後7～10日）です。出穂期予測などの情報をもとに防除計画をたて、効果的な薬剤防除を行うことが重要です。また、発病の好適条件が続く場合などは、1回目の散布後7～10日に2回目の散布を行います。ただし、薬剤によっては出穂後1回しか使用できないものもあるので注意してください。

表1 赤かび病に登録のある主な薬剤（平成20年3月5日現在）

薬剤名	希釈倍数・使用量	収穫前日数 -本剤の使用回数	対象 作物	有効成分
トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	14-3(出穂期以降は2)	小麦	チオファネートメチル
		30-3(出穂期以降は1)	麦類 (小麦を除く)	
ベルコート水和剤	1,000～2,000倍	21-3(出穂期以降は1)	小麦	イミノクタジン
ベフラン液剤25	1,000～2,000倍	14-3(出穂期以降は1)	小麦	
ストロビーフロアブル	2,000～3,000倍	14-3	麦類	フルキサムメチル
チルト乳剤25	1,000～2,000倍	3-3	小麦	プロピコナゾール
	8倍(無人刈散布)	7-3		
	1,000～2,000倍	21-1	大麦	
	8倍(無人刈散布)			
コロナフロアブル	400倍	-5	麦類	硫黄

農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を確認のうえ、周辺作物に留意して使用してください。

## 水稻の育苗箱施薬について

育苗箱施薬は、本田での散布に比べて作業は簡便で省力的です。しかし、病害虫が発生する前に薬剤を施用するため、対象とする病害虫が発生しなかった場合は、結果的に過剰な防除となります。また、効果の持続期間が長く、対象病害虫が多い薬剤は高価です。このため、過去の病害虫の発生状況を十分に考慮したうえで、適切な薬剤を選択して下さい。

### 薬剤の選択

育苗箱施薬は、イネミズゾウムシ等、水稻の生育初期に発生する害虫や、いもち病を防除できます。薬剤を選択する際は、下表および農作物病害虫雑草防除指針等を参考に、病害虫の発生状況にあわせて薬剤を選択して下さい。なお、播種時や緑化期に施用できる薬剤もあり、作業体系に応じて選ぶこともできます。

表 主な対象病害虫と薬剤の使用例

対象病害虫	薬剤の使用例(農作物病害虫雑草防除指針より)
葉いもち	フジワン粒剤, オリゼメート粒剤
葉いもち + 穂いもち	ウィン箱粒剤, デラウス粒剤, デジタルコラトップ箱粒剤
葉いもち + イネミズゾウムシ + イネドロオイムシ	フジワンプリンス粒剤
葉いもち + 穂いもち + イネミズゾウムシ + イネドロオイムシ	ウィンアドマイヤー箱粒剤, Dr. オリゼプリンス粒剤6 デラウスプリンス粒剤 06, ジャッジ箱粒剤
葉いもち + 穂いもち + 紋枯病 + イネミズゾウムシ + イネドロオイムシ	ウィンアドマイヤーグレータム箱粒剤, 嵐ダントツ箱粒剤, 嵐プリンス箱粒剤 6
イネミズゾウムシ	ガゼット粒剤, オンコル粒剤5, パダン粒剤4
イネドロオイムシ	アドマイヤー箱粒剤, プリンス粒剤
イネミズゾウムシ + イネドロオイムシ	アドマイヤー箱粒剤(使用量は育苗箱一箱あたり 50g とする) プリンス粒剤

**農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法、注意事項を確認のうえ使用して下さい。**

### 使用時の注意点

田植前に散布する場合は、葉が濡れていると薬害を生じやすいので、露を払い落とした後に、専用の計量箱か散布器を用いて所定量を均一に散布して下さい。その後、葉に付着した薬剤は払い落とし、軽く散水して育苗土に落として下さい。は種前に使用する場合は、床土に均一に混和します。この際に余った床土は河川や水路に捨てずに適正に処理して下さい。

**なお、薬剤を処理した場所で野菜等農作物を栽培すると、後作に薬害が発生したり、意図しない農薬が吸収される可能性があるため、薬剤の処理及びその後の育苗管理は、他の農作物を栽培する場所では行わないで下さい。**

### 主な病害虫の防除のポイント

育苗箱施薬をしても、病害虫の発生期間が長引いた場合や多発生した場合は、追加防除が必要となることもあります。病害虫の発生状況に十分注意しながら、育苗箱施薬だけでなく、適正な施肥や、中干し等を行って、イネを健全に生育させるよう心がけるとともに、以下を参考に病害虫の抑制に有効な手段を取り入れ、総合的に病害虫を管理することが大切です。

- ・イネミズゾウムシ：湛水状態は成・幼虫の活動に適するため、中干し、間断かんがい等、適正な水管理に努める。
- ・イネドロオイムシ：田植後1か月程度経過してからが加害のピークとなるため、効果の持続期間が長い薬剤が適している。
- ・いもち病：窒素の過剰な施用は、いもち病の発生を助長するので、適正な施肥を行う。
- ・紋枯病：越冬した菌核が代かき時に水面に浮上し、イネの株元に付着して伝染源となる。代かき時に水尻や畦畔沿いの浮遊物は除去する。

## ・今月の気象予報

### 関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 3月22日から4月21日)

気象庁(3月21日 発表)

< 向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%) >

[ 確率 ]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	30	50
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	30	30	40

[ 概要 ]

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。前半を中心に気温の高い日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は高い確率50%です。

< 1週目の予報 > 3月22日(土曜日)から3月28日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率70%

< 2週目の予報 > 3月29日(土曜日)から4月4日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

< 3週目から4週目の予報 > 4月5日(土曜日)から4月18日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

## ・テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号：029(226)5321

4月上旬 ナシ病害虫の防除及び麦類の赤かび病対策について

4月下旬 麦類の赤かび病と果樹の病害虫防除について

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。